

# 令和6年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園  
関目聖マリア幼稚園

当園ではこの度、令和6年度の幼稚園学校評価として、保護者アンケート及び、教職員自己評価・学校関係者評価を実施いたしました。教職員自己評価では、教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を客観的に振り返ることにより、自身や園全体を見つめ直す非常にいい機会となりました。

今年度の保護者アンケートの結果及び、教職員自己評価の結果を活かし、来年度以降の更なる教育活動の充実、教職員の資質向上に努めていきたいと考えております。

## I. 教育目標

### 目指す園児像

心身ともに明るく健康な子ども  
何事にも興味を持ち、創造性豊かな子ども  
誰とでも遊べる思いやりのある子ども  
正しい考え方で行動できる子ども

### 具体的な教育目標

- ①基本的な生活習慣・態度を育て、健全な心身の基礎を培います。
- ②人を尊重し、助け合い、すすんで他の人の幸せのために奉仕する生き方を学びます。
- ③自然などと親しみ、驚きや発見などの感動を大切にし、豊かな心情や思考力の芽生えを培います。
- ④言葉を交わす楽しさを知り、喜んで話したり聞いたりする態度を養います。
- ⑤さまざまな体験を通して、豊かな感性を育て、創造性に富んだ生活を営む基礎を培います。
- ⑥体育・音楽・造形に力を入れ、楽しく活動しながら自己表現の大切さを学びます。

## II. 今年度の重点目標

- ・目標の推進
- ・組織体制の構築
- ・保育環境の整備
- ・保育内容の充実
- ・情報共有
- ・安全管理体制の強化

## III. 評価項目と取組み状況

評価項目	取組み内容	取組み状況
1 (目標の推進) 理念の浸透・目標の推進	経験を通して自分で考え、選び行動し、責任を持つことができる子どもの育成。その目標達成のため教職員も経験を増やし自ら考えて責任を持って喜んで行動する。	<p><b>B</b> 子どもたちが経験を通して自ら考えて行動し、責任を持つことができるよう、日々の保育において状況を注視し、個々の成長に合わせた援助を心がけた。子どもたちが自ら選べる環境を整え、やってみたいという気持ちを尊重することで、主体的な行動を促した。行事を通して、子どもたちが自分でできる場面を増やし、自信を育むことができた。</p> <p>幼稚園との合同研修や行事への協力は、連携を深め、視野を広げる良い機会となった。保育内容を見直し、探究的な活動を取り入れるなど、子どもたちが主体的に活動できる機会を増やすよう努めた。自身の経験を活かし、積極的に意見を出し合い、より良い保育を目指した。</p>
2 (組織体制の構築) 組織体制	担任の職務・保育の流れ・子どもの育ち等の基礎部分の確認を丁寧に行う。その中で疑問点の自己発信や意見交換をしやすい体制を整える。	<p><b>B</b> 担任間で子どもの育ちや保育について話し合う場を設け、月1～2回の会議と都度の話し合い、主任・副主任からの通知を通して意見交換や疑問点の共有を行った。子どもが活動しやすい保育の流れを考え、実践後の改善も保育者間で協議した。</p> <p>乳児保育では生活リズムを整え、子どもの様子や対応について意見交換を行いながら、一人ひとりに合った遊びを用意し、子どもの意欲を尊重した。クラス内やクラス間でも育ちについて話し合い、日々の保育の改善点を共有し、常に同じ方向を向いて保育を行えるよう努めた。</p>

# 令和6年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園

閑目聖マリア幼稚園

評価項目	取組み内容	取組み状況	
3 (保育環境の整備) 環境を活かした保育環境の整備	活動に自ら取り組めるように、保育室内の環境を工夫する。園庭においては都会の中の園であるからこそ、畑での食物栽培などを通して自然を感じることができると環境を構築する。	B	<p>園庭で野菜の収穫や観察を通して自然に触れ、食材を給食の献立に入れることで意欲的に食べる様子も見られて、結果的に食育にも繋げることができた。戸外遊びでは公園への散歩を通して、身近な自然物で遊ぶ機会を作り、室内では子どもの育ちに合わせたコーナーを作り、玩具の種類や数を工夫して集団遊びや一人ひとりの遊びを充実させ自然や環境物に気づけるよう、戸外・室内遊びのバランスを考慮しました。保育室は年長の部屋をリノベーションする等の試行錯誤し、ルールの中で動きやすい配置を工夫しました。</p> <p>今後は園庭の畑での収穫の喜びを保育に活かしきれていない点や、畑へ行く回数が少なかった点が検討すべき課題と考えている。</p>
4 (保育内容の充実) 縦割り保育の取り組み	縦割りの担当グループを決め、年間を通して縦割り保育を計画し取り入れる。	B	<p>年間を通して縦割り保育を計画的に取り入れて、毎日交流する機会を増やし、異年齢間の縦の繋がりを深めることができた。さらに夏以降には午前中に乳児縦割り保育を複数回実施し、年中児が乳児の寝かしつけを行うなど、異年齢での触れ合いが見られた。3月には一緒に給食を食べるなど、合同での活動を経験しました。</p> <p>特にクラスの中で少・中・長のチームを作ることで、子どもたちに責任感と安心感が生まれました。年間を通して共に活動する機会が多く、異年齢間の親睦が深まった。</p>
5 (情報共有) 情報共有	職員数が増加しているため、情報共有が最優先課題となる。様々なツールを使いながらも一人ひとりが意識をして声を掛け合いつながっていくことを強化していく。保護者や対外的には引き続きレーザーキッズを活用し、発信力を高めていく。	B	<p>日々の保育や行事において、朝礼・終礼を通じて子どもの様子や翌日の予定を全体LINEで共有し、クラス内でも保護者からの情報や伝達事項を意識的に共有した。また、朝礼ノートを活用することで欠席者も情報を確認できる体制を整えた。さらに、「レーザーキッズ」を活用して、保護者に子どもたちの様子や園での取り組みをタイムリーに伝えることができ、多くの保護者から「園の様子がよくわかる」との好評を得た。ペーパーレス化や動画配信、予定のカレンダー共有、バスアプリの連携など、効率的な情報発信にもつながっている。</p> <p>一方で、朝礼ノートやフリーノートの情報量が多く、必要な情報が見つけにくいという課題があった。さらに、一部職員はレーザーキッズでの配信に対してハードルを感じており、配信頻度についても今後の改善を検討する。</p>
6 (安全管理体制の強化) 安全管理体制の強化	声の掛け合いを怠らない。日々の終礼でマニュアル類の読み合わせを行いながら、定期的に見直し、視覚化を行う。小さなこともヒヤリハットとして受け止め記録していくことを習慣化し、個々の意識を高めていく。	C	<p>保育者間での声かけにより、子どもへの与薬の飲み忘れを防止できた。また、遊具周辺の危険箇所（砂の堆積）を清掃し、転倒防止に努めた。ヒヤリハットの記録を紙で行うことで、日常に潜む危険を認識しやすくなり、怪我が発生した際には原因を分析し、再発防止策をクラスで共有・協議した。</p> <p>避難訓練では、シーカレット避難訓練や合同訓練を実施し、終礼での情報共有を通して課題を振り返る機会を持った。また、子どもだけで部屋に残らないよう常に声かけを徹底し、状況に応じた柔軟な対応を行った。</p> <p>保育の中では、子どもに手厚く関わる必要がある場面でフリーの先生に全体を任せると連携を図り、部屋を出る際には目的を伝えて声かけを行うよう心がけた。</p>

## 【評価の基準】

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取組まれているが、成果が十分でない
D	取り組みが不十分である

# 令和6年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園  
関目聖マリア幼稚園

## IV. 今後取り組むべき課題

1	目標の推進	キリスト教の理念のもと、皆が大切にされているという実感が持てるような場の構築。 ～ともに～ 子ども・保護者・教職員が子どもを真ん中に、互いに思いやりながらともに繋がっていく。その繋がりが地域へ、そして様々な場所へと広がっていくよう意識をしながら歩みを進める。 対話 保育者が対話の力を身につけ、学年の枠を超えてつながりあい、子どもの模範となる。 子どもから学ぶ 子どもをよく観察し、子どもの今の発達に合わせた働きかけを行う。 自己実現力を高める 子どもが言葉をはじめ、様々な方法を用いて自分の感情を豊かに表現できるようになるため、模範となる職員の自己表現力も高める。 子どもが主体的に活動に取り組めるよう環境を準備する。 子どもが直接体験できる場の提供をする。 大人同士が意見を出しあえる環境づくりを行う。
2	組織体制の構築	担任以外の保育者の視点を取り入れる機会を作る。 相談しやすい体制を強化する。 クラスで協議後、学年リーダーに相談し子どもにとって最善の対応を図る。 発達段階を踏まえた丁寧な保育を実践し、気になる点を話し合える環境を作る。 他クラスの保育を理解するため、保育に入ったり、クラスを入れ替わる機会を設ける。 例年のやり方にとらわれず、今子に必要な保育を意識する。 自分の意見を積極的に発信する。 基礎的なことを定期的に確認する場を設ける。 一人で判断せず、全体で確認しながら進める。
3	保育環境の整備	自然と触れ合う場の体験として、積極的に畠の手入れと収穫を行う 子どもの畠での活動の参加を促す。 園庭活動について、子どもの状況や気候を考慮した話し合いの機会を持つ。 保育者は発達に合わせた子どもの遊びの展開を考慮して、玩具・教具を定期的に見直す。 散歩や公園を活用し自然を感じる機会を作る。 個の活動 小集団での活動ができるよう全学年でコーナーのあり方を検討し準備する。 棚の整理と収納スペースの確保。 モンテッソーリ教具の知識を深める研修を行う。
4	保育内容充実	発達段階に合わせた日々の保育の延長線上に行事をとらえ、行事のための保育とならないよう意識する。 縦割り保育の実施。 子どもが不思議に出会い自ら探究できるような環境を準備する。 乳児・幼児担当者の話し合い時間を作る。 クラスを超えた子どもの様子の共有と声かけを意識する。 チームでの取り組み方や時間確保について意見交換を行う。 子どもが自ら選び活動できるよう環境を整える。移動時の安全対策を見直す。 異年齢で楽しめる活動やゲームを考案する。
5	情報共有	会議内容の全体周知を図る。 声かけを意識し、確実な情報伝達を心がける。 非正規職員も参加できる研修方法を検討する。 朝礼ノートだけでなく、リーダーからの伝達も検討する。 レーザーキックスの検索機能の要望を検討する。
6	安全管理体制の強化	常に声かけを行い、全体で保育する意識を持つ。 ヒヤリハットの継続的な記録と全体共有の徹底。 遊具・教具・室内環境の定期的な点検と報告。 危険のない環境整備と、他保育者との連携強化。 気づいたことの伝え合いを習慣化する。 シミュレーション訓練の継続と振り返りによる改善。 幼児と乳児の戸外遊びの時間確保。 終礼でのマニュアル読み合わせの実施と時間管理。 わからないことがあったときは「なんとなく」で済まさず、確認・共有を行う。 地域の防災訓練に参加しつながりを持つ
その他	今後の課題	園全体として、職員間の声かけや報告をより大切にし、連携を強化していく必要がある。乳幼児合同の学年主任会議などを通してお互いの理解を深める。また地域の人々との交流を計画的に実施し、保護者に対しては子どもと遊び場所や遊び方を提供などを通して支援する。園外への情報発信においては、内容の確認を徹底する。職員同士が互いを認め合い、自己肯定感を高められるような雰囲気づくりに努め、反省点を次に活かすためのモチベーションを高める。自由な活動が増えた反面、ルーズになっている面もみられるため、互いに気づいたことを伝えあう。様々な働き方を理解し、協力して業務に取り組めるようにする。保護者が安心して園を利用できるよう、丁寧で誠実な対応を心がけ、レーザーキックス等を通じて子どもの様子を伝え、家庭での様子も把握できるよう努める。職員それぞれの役割を明確にし、保護者との日常的なコミュニケーションを工夫し、園の方針を具体的に伝える。職員数増加に伴う情報共有の課題を解決するため、声かけを強化する。保護者アンケートで指摘された長期休みの預かりDVDの内容について話し合い、改善策を検討する。

# 令和6年度 学校評価結果報告書

学校法人 大阪聖マリア学園  
関目聖マリア幼稚園

## V. 学校関係者の評価

自己評価・保護者アンケートを基に関係者評価を実施

- ・自己評価についての取り組み状況・達成状況は適切であると評価します。とくに【目標の推進】では子どもと職員が共に経験を通して自分で考え、行動して責任を持つことができるよう取り組んでおり、その成果が表れているのを職員研修の際などに実感します。
- ・今後の課題設定も概ね適切であると考えます。担任以外の連携の推進や、安全管理体制の強化は引き続き大事な課題になると考えます。
- ・情報供給や安全管理などの難しい課題に対する積極的な取り組みは素晴らしいと思いました。
- ・【保育環境の整備】と【縦割り保育の取組み】の2点はセットとなり、園内の雰囲気や園児たちの関係性が良くなつたと感じます。
- ・【安全管理体制の強化】などの課題はありますが、分析と対策を考えられての取り組みのため、今後につながると感じております。